

# 世界一の木造歩道橋「蓬莱橋」の魅力を活かした水辺空間の整備・活用のための社会実験の実施と今後に向けて

平田 瑞穂<sup>1</sup>・杉村 一樹<sup>2</sup>・茂川 裕行<sup>3</sup>・竹内 えり子<sup>4</sup>  
・大須賀 麻希<sup>1</sup>・大石 三之<sup>5</sup>・和泉 大作<sup>1</sup>・野田 渉<sup>6</sup>

<sup>1</sup>株式会社建設技術研究所東京本社環境部（〒330-0075 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷 4-2-20 住友生命浦和テクノシティビル 1F）

E-mail: mzh-hirata@ctie.co.jp

<sup>2</sup>国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所工務課（〒420-0068 静岡県静岡市葵区田町 3-108）

E-mail: sugimura-k85aa@mlit.go.jp

<sup>3</sup>島田市役所観光文化部観光課（〒427-8501 静岡県島田市中央町 1-1）

E-mail: hiroyuki1\_mogawa@city.shimada.lg.jp

<sup>4</sup>正会員 株式会社建設技術研究所東京本社環境部

<sup>5</sup>株式会社建設技術研究所東北支社環境室

<sup>6</sup>株式会社建設技術研究所中部支社河川部

大井川に架けられた「蓬莱橋」は、島田市にある世界一長い木造歩道橋として、多くの観光客が訪れる観光名所である。

蓬莱橋と周辺の水辺空間の整備・活用をねらいとして、左岸では 2017 年 3 月に、右岸では 2021 年 3 月にかわまちづくり計画が登録されている。登録後、左岸は物販施設や広場の整備が進み、賑わいが創出されている。一方、移動手段が左岸からの徒歩に限られ、アクセス面の不利が課題となっている右岸は整備計画の検討段階であった。

そこで、左岸から右岸へ人の流れをつくることを念頭に、蓬莱橋兩岸の結びつき、ひいては周辺拠点との回遊性の強化を目指した右岸のかわまちづくり計画について、計画の課題把握や解決方法を洗い出すため、2021 年 11 月に社会実験を実施した。本報告では、社会実験の企画運営、実施結果、検証について報告する。

**Key Words:** community development integrating rivers, The Horai Bridge, water amenity space, social experiment, community revitalization

## 1. はじめに

島田市は大井川の中流部に位置し、大井川を挟む東海道の宿場町として、大井川を川越する人々でにぎわった歴史がある。また、明治期に牧之原の茶畑が開墾され、それに伴い大井川を川越するために島田からの農道として架けられた蓬莱橋は、ギネスブックにも登録されている世界一の長さを誇る木造歩道橋である。現在の蓬莱橋は、多くの観光客が訪れる観光名所となっている。

こうした特性を生かし、島田市では、大井川を軸としたまちづくりを進めており、「蓬莱橋」とその周辺の水辺空間の利活用のための整備を行っている。本報告では

「かわまちづくり支援制度」を用いた整備に向けての社会実験の実施と検証結果を紹介する。



図-1 島田市蓬莱橋の位置図

## 2. 大井川蓬萊橋右岸かわまちづくり

### (1) かわまちづくりとは

かわまちづくり事業とは、まちづくりにおいて河川空間を積極的に活かすことを目指し、河川とそれに繋がるまちを活性化する取り組みである。事業の推進に向けては「かわまちづくり支援制度」が設けられており、同制度は観光基盤となる「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、多様な主体によって「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指すものである。また、河川利用の面においては、占用許可の緩和により 2011 年 3 月から全国の河川で、民間事業者が飲食店、オープンカフェ、広告板、照明・音響施設、バーベキュー場等を設営することが可能になったことから様々な利用スタイルでの動きが広がっている。

### (2) 大井川蓬萊橋右岸かわまちづくり計画

#### a) 大井川蓬萊橋でのかわまちづくりの状況について

蓬萊橋はドラマや映画の舞台にもなっており、観光客は年々増加し、2016 年には約 12 万人に達した。コロナ禍の 2021 年でも約 9 万人もの観光客が蓬萊橋を訪れており、島田市の代表的な観光スポットである。大井川沿川には蓬萊橋に加え川越遺跡等の歴史的施設やマラソンコース「リパティ」等の運動施設が点在し、観光振興や地域活性化に向けたポテンシャルが非常に高いエリアとなっている。

しかし、蓬萊橋周辺は利便施設や河川へのアクセス性が課題となっており、地域住民や観光客からより良い整備を望む声が多く上がっていた。このような状況で、「島田市大井川ミズベリング協議会」が設立され、「蓬萊橋」の左岸側を中心とした「大井川宝来地区かわまちづくり計画」が 2017 年 3 月に登録された。そして、計画されていた整備内容に沿って、蓬萊橋左岸側ではこれまでに、番小屋・物販所、広場、休憩場所・トイレ、緩傾斜階段、坂路、駐車場等が整備されている。

左岸側の魅力が向上している一方で、蓬萊橋の全長が 897.4m と長く、移動手段が左岸からの徒歩に限られ、アクセス面で不利である右岸側の賑わい創出が課題となっていた。そこで、2020 年度には、蓬萊橋右岸側を対象に、活用や整備を議論する検討部会を開催した。検討部会はミズベリング協議会の下部組織として立ち上げたものであり、市役所の若手職員や、市民が参加した。

検討部会参加者により、高水敷の広場・トイレ・散策路などの整備や民間事業者等と連携したオープンカフェやデイキャンプ場などの活用が検討され（図-2）、2021 年 3 月には「大井川蓬萊橋右岸地区かわまちづくり」が「かわまちづくり支援制度に係る計画」に登録された。



図-2 大井川蓬萊橋右岸側の整備・活用イメージ

#### b) 大井川蓬萊橋右岸周辺の現状整理結果（利活用状況の課題）について

右岸側の課題として挙げられるアクセス面の不利により、整備によって魅力が向上した左岸から渡橋しようとする訪問者も右岸までたどり着く前に引き返してしまっていた。このように兩岸の結び付きが弱いことに加え、蓬萊橋と他地点をつなぐ広域の活用が不十分であり、島田市のまちとのつながりも薄いことが課題であった。

賑わい創出のための整備・活用イメージを具体化させる上では、上記の課題を解消することが必須である。

これまでの整備により左岸側に人が集まりやすい状況が生まれていることから、兩岸の魅力を高めて結びつきを強化し、左岸から右岸へ人の流れをつくること、そこから蓬萊橋一帯の拠点性を向上させ、周辺の拠点との回遊性を強めていくことを念頭に計画を進めていくこととした。（図-3）



図-3 周辺拠点との回遊イメージ

#### c) 大井川蓬萊橋右岸かわまちづくり計画での狙い

島田市では、大井川を軸とした地域の活性化を目指し、世界一長い木造歩道橋「蓬萊橋」とその周辺の水辺を「観光・交流」「にぎわい」「憩いの場」を創出できる

拠点として活用する取り組みを進めている。

この島田市の取り組みと合わせて「大井川蓬莱橋右岸地区かわまちづくり」では、表-1 および図-4 のような役割分担のもと、島田市と国土交通省が連携した整備計画を立案した。

なお、既に該当箇所は申請を行い、河川敷地占用許可準則 22 条に基づく、都市・地域再生等利用区域に指定されている。

表-1 蓬莱橋右岸側の整備計画における役割分担

国土交通省	河川管理用通路, 坂路, 基盤整備・整地, 親水護岸等
島田市	広場の張芝等, トイレ, 遊歩道, 案内サイン, 小径整備等



図-4 蓬莱橋右岸側整備概要図

### 3. 事業の推進・充実に向けた検討

整備による効果を最大化するために、その場の利用用途を明らかにし、そのための整備を明確にする必要がある。そこで、蓬莱橋右岸において想定される活用方針に沿ったイベント等の社会実験を実施し、検証を行った。

#### (1) 社会実験の企画検討

社会実験においては、島田市や地元関係者との連携が重要であることから、島田市と計画策定時の蓬莱橋右岸側地区検討部会参加者に地元代表を加えたメンバーで、企画検討部会を設立した。

なお、企画検討部会は、島田市大井川ミズベリング協議会に承認を得て設置し、2021年8月～12月に計3回開催した。

社会実験の企画としては、主に島田市が公募によって募集するイベント企画に加え、国交省の支援によって立案、運営するプラスαの企画を進めることとした。このプラスαの企画について、企画検討部会にて検討した。

企画検討部会では、右岸側に求めることとして3つの方向性が挙げられた。具体的には、①左岸から右岸に人の流れを作るとともに、②歴史や文化が感じられる場所、

③市民の憩いの場であり魅力のある場所とすることである。そこから、右岸のポテンシャルを活かした企画案を提案した。(図-5)

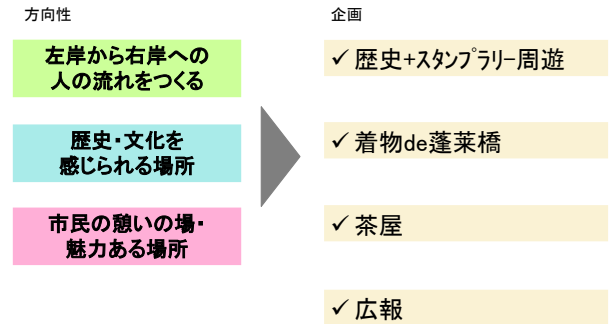


図-5 プラスαの企画案

さらに、ワークショップなどを通じて、社会実験のイベントキャッチコピーを検討し、右岸側をどのように使っていきたいか意見を出し合った。このときとりまとめたキャッチコピー「いつもの景色の向こう側へ…」には、いつもは左岸側からの景色を見ている地元市民に、向こう側になにがあるか、想像を膨らませてもらい、右岸へ訪れてほしいとの思いを込め、イベント全体の広報に用いた。

イベント運営準備にあたっては、地元ボランティアや蓬莱橋周辺で活動している市民団体に協力を依頼し、多様な主体が関わることを目指した。

広報については、社会実験を宣伝するために、実施期間および公募企画を含めて企画概要を掲載したポスターを 2750 部作成し、作成したポスターは、島田市と検討部会の協力を得て市内各所に配布した。(図-6)



図-6 ポスター (左: 表面、右: 裏面)

また、イベント広報には SNS も活用することとし、Twitter および Instagram アカウントを開設し、運用した。そのほか、島田市の公式 LINE アカウントでの宣伝も行った。

## (2) アクセス面での課題

社会実験にとって、蓬萊橋右岸側へのアクセス性を向上させ訪問者を増加させることは重要であった。また、公募企画ではキャンプやマルシェを予定しており、運営側の荷物搬入も含め、高水敷への車でのアクセスが必須であった。ただし、蓬萊橋右岸側周辺には駐車可能なスペースがなく、橋のたもとから高水敷までは徒歩でしかアクセスができない現場状況であった。そのため、企画当初は蓬萊橋より下流の谷口橋から工用の仮設道を通り、車で高水敷にアクセスすることを想定し用意を進めていた。しかし、仮設道の一部が 2021 年 8 月の出水で侵食を受け流出したため、それ以降は右岸側高水敷への車でのアクセスは不可能となってしまった。(図-7)

そこで、離れた場所ではあるが右岸側に仮設駐車場を設け、左岸からの徒歩以外の選択肢を確保した。また、公募企画の運営用には蓬萊橋のたもとから高水敷へ荷物搬入用のリフトを設置した。



図-7 右岸側高水敷へのアクセス路

## (3) 社会実験の運営

社会実験は2021年11月7日から28日まで実施した。週末(土・日曜)に公募およびプラスα企画のイベントを、平日も含めた全期間中に蓬萊橋と周辺施設等の周遊をねらったスマホラリーを開催した。

公募では、周辺地域からの出店を主にしたマルシェ「きてご〜右岸へ!〜いいところ再発見〜」、およびキャンプとマルシェ等を組み合わせたイベント「世界一蓬萊橋のキャンプ&マルシェ」が行われた。前者は売り切れが続出するほどの盛況ぶりとなり、後者は事前予約時点で予約が埋まったほどの集客力があつた。



図-8 公募イベント実施時の様子(11月7日撮影)

また、企画検討部会で検討したプラスα企画のイベント詳細は、以下に示す。

### a) 蓬萊橋スマホラリー

期間中に常時参加可能とした、スマホでのスタンプラリー。蓬萊橋周辺のスポットに加えて、島田市内の観光スポットを周遊することで景品をプレゼントする企画とした。参加者はおよそ100名であり、アンケート結果からも満足度の高いイベントで周辺との回遊性が集客に寄与することを確認した。

### b) 蓬萊橋クイズラリー

蓬萊橋と右岸側史跡について案内を受けながらクイズを解いて周遊する歴史散策イベントを、現地ボランティアガイドの協力のもと実施した。参加者は2日間で120名以上となり、地元団体と連携した企画を具体化することができた。



図-9 クイズラリー実施時の様子(11月20日撮影)

### c) 着物de蓬萊橋

地元市民団体によって島田市内各地で開催されている着物を着て史跡をめぐるイベントを、蓬萊橋にて実施した。参加者は1日で100名近くに上り、地元団体が主体となって企画運営する可能性を見出した。

### d) 野点(お茶どころ)

右岸の橋のたもとで地元の島田茶、川根茶の民間事業者が出店し、高水敷に休憩場所を提供した。2日間で150名程度が訪れたものの、売り上げになかなか結び付かない結果となった。宣伝の強化やより集客しやすいイベント形態の模索が課題となった。

### e) 広報(SNS)

期間中の告知や実施報告をSNS(TwitterおよびInstagram)で行うことで、広範囲でリアルタイムの情報展開を図った。投稿後にすぐに反響が確認でき、宣伝ツールとして狙い通りに機能することを確認した。また、島田市の公式LINEアカウントでの宣伝を行い、市内からの集客を図った。

(4) 社会実験の実施結果

a) 集客数

社会実験における蓬莱橋右岸側の集客数は、イベント実施時の休日には最大 1,700 名/日となった。これは渡橋者数および仮設駐車場の利用者数等をふまえて整理した結果である。アクセス面での課題がある中でも、訪れる目的の提供により、人を集めることができる場所であることを確認できた。

渡橋者数に着目すると、同じ休日でもイベントが実施されている日の方が多く傾向が見られた。(図-10) この渡橋者数は左岸側で記録していることから、右岸のイベントによって対岸も含めた蓬莱橋全体の集客数を高められることが示唆された。ただし、11月27日のイベント時の渡橋者数が、他のイベント実施日よりも少なくなっている。(図-10) この日はかなりの強風であったことから、野外でのイベントでは集客が天候に影響を受けやすいことを示した結果と考えられる。

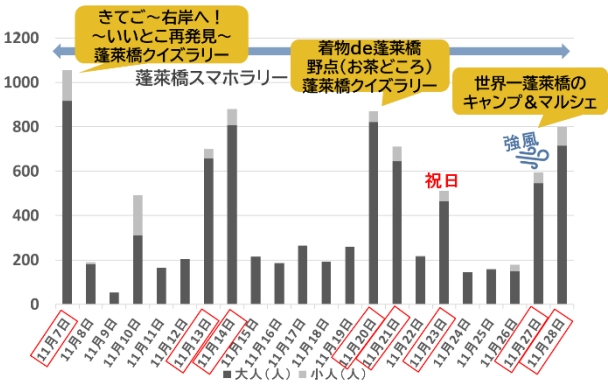


図-10 期間中の渡橋者数推移

また、直近3か年での同時期の渡橋者数と比較するとイベント実施時に他の年よりも多い傾向がみられた。

(図-11) コロナ禍で落ち込んだ賑わいを創出できたと考えられる。

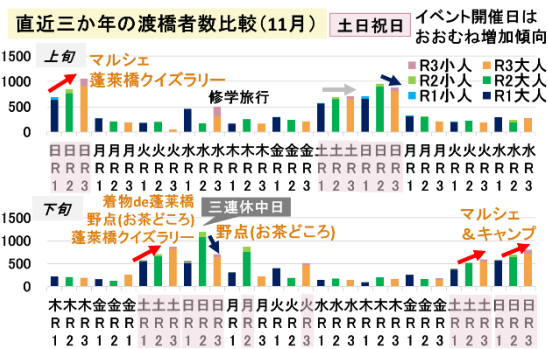


図-11 直近3か年の渡橋者数比較

b) アンケート結果

イベント参加者を対象に WEB もしくは紙媒体でのアンケートを実施した。アンケート回収数は 181 票 (うち WEB 回答 : 20 票、紙面回答 : 161 票) であった。

アンケートから、主に島田市、およびその近郊から訪れた人が多いことが示された。(図-12) 企画検討時より、普段右岸まで来ることのない来訪者を呼び込むことをねらいとした広報の効果が確認できた。

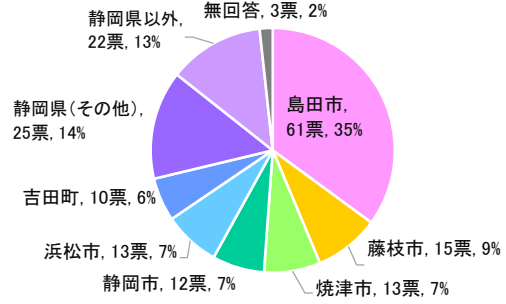


図-12 アンケート設問「住まい」の回答

イベントの満足度については、「とても満足」「やや満足」が過半数を占め(図-13)、参加者に十分楽しんでもらえたことが示された。子供から大人まで様々な年代が同じように楽しめたことや、ゴミが落ちていないことや景色がきれいなことといった周辺の景観も含めて満喫できたことが、満足と答えた理由であった。一方で、「やや不満」「とても不満」と答えた理由には、イベント時の売り切れや会場までのアクセスの悪さが挙げられており、今後のイベント時の課題となった。

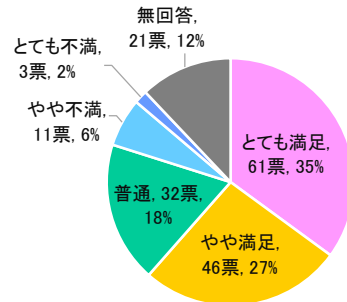


図-13 アンケート設問「イベント満足度」の回答

そして、右岸側での必要な設備については、「河原の駐車場」、「河川敷への階段やスロープ」の回答が半数を占め(図-14)、社会実験を通して右岸河川敷へのアクセスに関する課題が浮き彫りとなった。

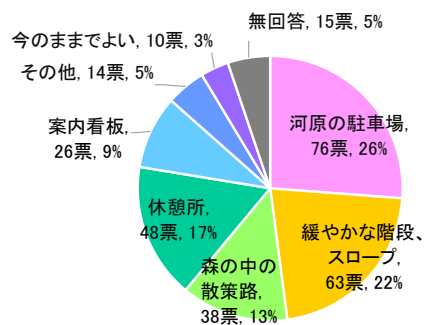


図-14 アンケート設問「右岸活用に必要な設備」の回答

